

ペヘレイ (PEJERREY) *Odonthestes bonariensis* (C&V) の飼育経過について—IX (昭和49年度及び50年度)

村 山 隆 夫 ・ 小 山 定 久

ペヘレイは、トウゴロウイワシ科に属する淡水魚で、本邦では初めて神奈川県が昭和41年にアルゼンチンから発眼卵で移殖し、以来当场でふ化飼育を行い、昭和43年から採卵が可能となり、以後、毎年種苗生産を行っている。

現在までの経過等については、すでに前報で報告したが、本報告では昭和49年度及び50年度における飼育状況、採卵状況について報告する。

飼 育 状 況

飼育池及び用水

使用した飼育池及び水温等は下記のとおりで、用水はすべて湧水を、各飼育池に常時1～3ℓ/sec程度注水して飼育を行った。

昭和49年度

飼育池 6面(99㎡～181㎡)

飼育水温 9.3℃～22.1℃

昭和50年度

飼育池 5面(99㎡)

飼育水温 10.9℃～24.6℃

餌 料

飼育餌料は、両年度とも、すべてコイ用固型配合餌料を用いた。

給餌率は、1～3%/BW/dayで、1日の給餌量を2～3回に分けて給餌した。

魚病等

両年度とも、11月～3月の湧水及び低水温期に、カビ病、キロドネラ病、エロモナス菌病等の魚病が多発し、相当数の被害を受けた。

これらの予防及び治療には、サルファ剤の経口投与あるいはフラン剤、マラカイトグリーン、食塩等の薬浴を行ったが、非常に回復率が悪く、ある程度の被害は免れがれない現状である。

採卵とふ化

昭和49年度については、5月から8月まで、5～2年魚を約1,100尾用いて約174,000粒の採卵を行い、ふ化率約23%で、約40,000尾のふ化稚魚が得られた。ふ化水温の範囲は、21.8℃～25.9℃であった。

また、昭和50年度については、4月から8月まで6～2年魚約1,400尾を用いて約224,000粒の採卵を行い、ふ化率約18%で、約40,000尾のふ化稚魚が得られた。ふ化水温の範囲は、15.3℃～26.8℃であった。

ふ化稚魚の飼育結果

両年度とも、ふ化稚魚はふ化後3～5日間シオミズツボムシを給餌後、あらかじめ施肥を行ってブラ

ンクトンを発生させてある野外のコンクリート製飼育池（99m²）数面に放養し飼育を行った。

飼育池へ放養後の給餌は、プランクトンの発生が見られなくなった時点で、ブラインシュリンプ幼体、アユ仔魚用固型餌料、コイ稚魚用固型餌料の順に給餌し飼育を行った。

飼育環境としては、グリーンウォーターの状態として、随時若干の湧水を注水した。

飼育期間中の水温の変動は、両年度とも、16.0℃～26.0℃の範囲であった。

これらの稚魚は、それぞれ下記のとおり放流し、残存魚は、親魚候補として次年度へ繰越した。

昭和49年12月19日	津久井湖	7,000尾
	全長	5.4 cm～7.5 cm
	体重	0.8 g～2.5 g
昭和50年10月29日	芦ノ湖	5,000尾
" " " 30日	津久井湖	3,000尾
	全長	5.6 cm～13.1 cm
	体重	0.9 g～18.5 g

文

献

1. 鈴木規夫・成岡俊男・片瀬悦雄 1968 ベヘレイ *Pejerrey*・*Odonthestes bonariensis* (C&V) の飼育について—1 (移殖1年目の飼育結果) 本報5号 17—21
2. 鈴木規夫・小山定久 1969 ベヘレイ (PEJERREY) *Odonthestes bonariensis* (C&V) 卵のふ化適温について—1 本報7号 60—62
3. 村山隆夫・小山定久 1970 ベヘレイ (PEJERREY) *Odonthestes bonariensis* (C&V) の飼育池での習性と疾病の治療について—1 本報8号 88—94
4. 村山隆夫・石崎博美・高橋昭夫・小山定久 昭和50年3月 ベヘレイ (PEJERREY) *Odonthestes bonariensis* (C&V) の飼育経過について—Ⅷ 本報12号 22—24